

圏外のアンテナ

[あと50日]の巻

先週、セカセカと東京駅八重洲地下街を歩いていると、人だかりができていた。

見ると、各国のラグビージャージが飾られている。どこからか、ニュージーランド代表オールブラックスがいつも試合前に披露する「ハカ」の雄叫びまでが聞こえてきた。

なるほど。ラグビーW杯の開幕まで50日を切ったところで、盛り上げイベントが始まったってわけね！

すると、気持ちがいきなり共鳴。わたしのようにオッチョコな、スポーツ観戦マニアにとって、W杯はやはり特別なのである。

わたしは、父が取っていたスポーツ新聞を幼稚園の頃から愛読して育った。そのせいか、たいていのスポーツのルールや見所が身についている。体操ならばギンガー宙返りとデルチェフ宙返りの違い、陸上ならば、十種競技の種目十個を、すぐに挙げることができる。

だがラグビーだけは別。

もちろん、80年代に大ヒットしたユーミンの「ノーサイド」はすりきれるほど聞いた。何度か、お正月に秩父宮へ、大学ラグビーの決勝を見に行ったことだってある。

なのにルールは、「？」の嵐である。

「ラグビーのルールなんて簡単。ボールを前に投げないことだけさ」などと、お気楽なことをいう人もいるが、シンビンって何？ なぜ、皆がワチャワチャ集まってるの？ モールアンプレアブルってどういう意味？ 何度観ても、謎が謎を呼ぶ、ラグビー観戦なのである。ひょっとしたら皆さんの中にも、わたしと同じような方がいらっしやるかもしれない。

さて、そんなラグビーW杯のチケットであるが、落選を繰り返したあげく、ようやく「落選者向け特別販売」で1試合をゲット。もちろん、横浜での決勝戦や、人気の日本戦などではなく、予選。おまけに席は、スタンドの端っこだ。

とはいえ、一生に一度、日本で開催されるラグビーW杯。ルールブックに首タックル（反則です！）をかけまくる日々の始まりである。

=2019年8月9日掲載=



アルゼンチン対アメリカ戦は埼玉県・熊谷ラグビー場で行われる